

島根県立大学 国際関係学部 小論文対策:完全攻略マニュアル

～「知的な怠惰」を脱し、国際社会の複雑さを解読する～

島根県立大学の小論文は、単なる作文能力を測るものではありません。大学側は、「複雑な事象を多角的に分析し、自分なりの論理で再構成できる知力」を求めています。このガイドでは、合格のために不可欠な4つの核心ポイントを解説します。

1. 核心となる思考:高坂正堯の「三つの体系」をマスターせよ

本学部の入試を貫く最大のフレームワークは、国際政治学者・高坂正堯氏の理論です。あらゆる問題を以下の三層で捉える練習をしてください。

1. 力の体系(Power): 軍事力、安全保障、物理的な支配力、法による強制力。
2. 利益の体系(Interest): 経済的繁栄、貿易、資源、供給網(サプライチェーン)、人々の生活の豊かさ。
3. 価値の体系(Value): 宗教、歴史認識、民主主義、人権、そして各民族が持つ独自の「常識」。

【合格への鍵】

小論文の最後で「話し合いが大事だ」と書くだけでは不十分です。「利益のレベルでは協力可能だが、価値のレベルで相容れない場合、いかに力のレベルで緊張を管理すべきか」といった、三層を使い分けた論述が高評価に直結します。

2. 禁句と戒め:「知的な怠惰」と「善玉・悪玉論」の排斥

課題文(令和7年度学校推薦型など)でも明示されている通り、問題を単純化することは「知的な怠惰」として厳しく否定されます。

- 避けるべき思考: 「〇〇国が悪いから戦争が起きる」「指導者が変われば平和になる」
- 求められる思考: 「対立の背後には、構造的な利益の衝突や、歴史的に形成された正義の相違(価値の体系)がある」

【対策】

ニュースを見る際、「どちらが悪いか」を考える前に、「双方がどのような正義(常識)を掲げているか」を書き出すトレーニングをしてください。

3. 地政学的リテラシー：歴史を現代の「武器」にする

一般選抜（国際関係コース）では、東アジアの現代史が頻出します。

- ・ 「力の真空」という概念：日本の敗戦により旧支配地から権力が消え、そこに米ソが入ったことで分断が起きたという因果関係。
- ・ 「境界線」の変容：かつての物理的な国境線（三十八度線など）が、現代ではデジタルや経済のネットワーク上の境界線へと再定義されているという理解。

【対策】

世界史や政治・経済の知識を単なる暗記で終わらせず、「この歴史的事件が、現代の〇〇という問題の根源（起源）になっている」と接続して説明できるようにしましょう。

4. アイデンティティの問い：「日本人」という自画像を描き直す

総合型選抜などで問われるテーマです。「自分」と「他者」の境界線を問い合わせ直す力が必要です。

- ・ **自画像とは：**鏡に映る自分を見るように、他者（外国人、移民、残留邦人など）との関わりを通じて初めて、自国の輪郭（日本人とは何か）が明らかになるという考え方。
- ・ **制度の理解：**戸籍や国籍という「制度」が、いかにして「日本人」という排他的な枠組みを作ってきたかという批判的視点。

5. 本番で差をつける「設問別・解答戦略」

問1・問2：200字要約・説明

- ・ **戦略：**本文のキーワードを「パズル」のように繋ぐだけでは不十分です。
- ・ **コツ：**「Aという理由によりBという事象が起き、結果としてCという構造が生まれた」という因果関係のレトリックを構築してください。

問3：600字総合論述

1. **導入（100字）：**課題文の核心を自分の言葉で定義する。（例：境界線が再定義されている現代において…）
2. **具体例（200字）：**自分の知識から具体的な事例（半導体摩擦、ウクライナ、団地の共生など）を一つ挙げる。

3. **分析(200字)**: その事例を「力・利益・価値」の三層フレームワークで解剖する。
4. **結論(100字)**: 理想論ではない「緊張の管理」や「知的労働の継続」としての平和を提示し、学びへの意欲で締める。

最後に:指導者・保護者の方へ

この入試は、生徒が「自分の正義が唯一絶対ではない」と気づくプロセスそのものです。添削の際は、文章の美しさよりも**「問い合わせの複雑さをそのまま引き受けているか」**を評価してください。